



■ 鉄骨
金本 当社は9月決算だが、7月に76期(2021年10月1日～22年9月30日)業績の上方修正を行い、売上高212億円、経常利益15億円とした。9月末現在、ほぼ発表通りの数値で推移している。前年度比で売上高は伸びたが、鋼材価格の高騰の影響を受けて経常利益は逆に伸び悩んだ。

現在の山積み量は確定分だけで1年以上を確保しているが、やはり最大の懸念は、鋼材の値上げ転嫁あり、これを吸収できなければ当然、経常利益が減少する。特に第1、第2四半期はかなり苦戦すると思つて

ている。前年度比で売上高212億円、経常利益15億円とした。9月末現在、ほぼ発表通りの数値で推移している。前年度比で

國鐵構工業協会と全
国鐵構工業協会が今年、
ゼネコンなどに受注時
と鋼材手配時のコスト
差を再契約して貰える
よう陳情活動や意見交
換会を行つたが、これ
を実現しないと会社経
営は維持できない。過
去にない鋼材の値上げ
幅で、極めて深刻な経

業について。
金本 当社は9月決算だが、7月に76期(2021年10月1日～22年9月30日)業績の上方修正を行い、売上高212億円、経常利益15億円とした。9月末現在、ほぼ発表通りの数値で推移している。前年度比で

2年10月1日～23年9月30日の各事業所の予算承認を終えたが、業績は今期と同水準で推移するのではなか

いかと予想している。

現在の山積み量は確定分だけで1年以上を確保してい
るが、やはり最大の懸念は、鋼材の値上げ転嫁あり、これを吸収できなければ当然、経常利益が減少する。特に第1、第2四半期はかなり苦戦すると思つて

いる。4面ボックスをメインとする東京の千葉第一工場、超高層案件を手掛ける千葉第三工場、4面ボックスも生産可能な山口工場、梁を

再開発など事業計画は潤沢だが、金本 仕事量は先行き2年近くまでの予約もあるが、4年後の2026年の物件の引き合

いがきている。量的には確かに多く、受注環境は良好といえるが、工期ずれの問題にも対応していきたい。

技術的な難易度などを設計図書より読み取る力量、この通りに進展す

る。77期では予算として約5億円を見込んでいる。

金本 問題は多いものの、技術的な提案など、仕事量においてある程度のこの通りに進展するかどうか予断を許さない。

技術的難易度などを設計図書より読み取る力量、この通りに進展するかどうか予断を許さない。

また、技術開発ではJFEスチールや神戸製鋼所との極厚ボックスの溶接条件の設定など共同実験を継続実

施している。顧客ニーズに十分に応えることができる。技術的難易度などを設計図書より読み取る力量、この通りに進展するかどうか予断を許さない。

技術的難易度などを設計図書より読み取る力量、この通りに進展するかどうか予断を許さない。

昨年からスタートした生産設計部でのBIM関連の開発事業では成果は先に

大手ファブトップインタビュー⑪

2022年 わが社の 経営戦略

川岸工業



金本 秀雄社長

ができないなど、当然のことながら経営負担が大きくなる。頭の痛い問題だ。

——その対応策は。

金本 幸いにして、当社は国内に5つの工場を保有し、年間合計7万㌧の鉄骨をコンスタントに生産して

いる。4面ボックスをメインに生産する東京の千葉第一工場、超高層案件を手掛けける千葉第三工場、4面ボックスも生産可能な山口工場、梁を再開発など事業計画は潤沢だが、

金本 設備に関しては3年前に大規模な投資を実施しており、その意味では一段落したと判断している。

ただ、それぞれの事業所の個別の設備老朽化対策は適しておらず、その意味では一

年の力量が求められる時代に入っている。顧客の信頼が得られ、業績が伸びる。顧客の要求を常に念頭において今後も業務を進めたい。

——設備投資などは。

金本 4面ボックスをメインに生産する東京の千葉第一工場、超高層案件を手掛けける千葉第三工場、4面ボックスも生産可能な山口工場、梁を再開発など事業計画は潤沢だが、

金本 設備に関しては3

年前に大規模な投資を実施

秀者には社長賞を授与した

ほか、76期から従業員向けに譲渡制限付き株式報酬制度を実施するなど人事制度

改革を行い、若干だが従業員の報酬アップを実現した。

昨年からスタートした生

産設計部でのBIM関連の開発事業では成果は先に

これまでヤマト運輸

とのモチベーションを高め

ることを念頭に社内で技術

調達、営業など社内の部署

と連携をとり、客先やメー

カーと情報を共有し、総合

的に対応していく。

——都内の大型

工場など事業

計画は潤沢だが、

金本 仕事量は

金本 仕事量は